

UH88日本時間について

大朝由美子(埼玉大学)

UH88日本人時間とは・・

- ◆ University of Hawaii, 88-inch telescope (2.2m)
について、年度ごとにある夜数を購入し、日本人天文学者が利用できるようにしたもの。

2010年度まで UKIRT(3.8m)も同制度あり。

◆そもそもの趣旨は・・

国立天文台とハワイ大学および英国赤外線望遠鏡との間の研究協力の一環として、ハワイ大学2.2m望遠鏡(UH88)と英国赤外線望遠鏡(UKIRT)の時間が、日本人研究者向けに2010年度まで確保されています。装置開発のための「試験望遠鏡」やすばる望遠鏡を支える研究の一環としてご活用頂ければ幸いです。現在、公募は半年毎で、TACおよび一部相手望遠鏡側による科学技術審査を経て望遠鏡時間の割り当てが行われています。

by 国立天文台ウェブ

UH88日本人時間とは..

観測夜を国立天文台運営経費？で購入

- ◆ 2008年度からハワイ観測所が業務を担当
- ◆ 2008 - 2010年度の3年間、天文台が予算を保証
2500万、2300万、2100万
- ◆ 2008年度から利用者の研究費による観測時間の買取り開始 (UH: ~50万/夜)
- ◆ 2011年度。UH: 50万/夜→40万/夜に値下がり。
- ◆ 光赤天連からの働きかけで2011年度は2100万円の予算措置。だが、2100万円は使い切れず、半額以上を返納。
- ◆ 2012年度予算340万円 --> \$4万 (85円/\$)
- ◆ UH88の1夜あたりの単価を\$4030とすると約9.9夜オーバーできないため総夜数は9夜採択とする
- ◆ UH側としては、年間15夜以内ならOK

UH88日本人時間TAC

◆2012年度新委員に総入れ替え

大朝由美子 (埼玉大: 委員長)、秋田谷洋 (広島大)、
鍛冶澤賢 (愛媛大)、諸隈智貴 (東京大)

国立天文台出身者達ですが、国立天文台在籍者おらず。

◆参考: 2008年度から2011年度まで

泉浦秀行 (委員長)、伊藤洋一、長尾透、本原顕太郎、
小林尚人 (2009A審査から)

◆ 第一回 2012B (Aug-Jan) 審査

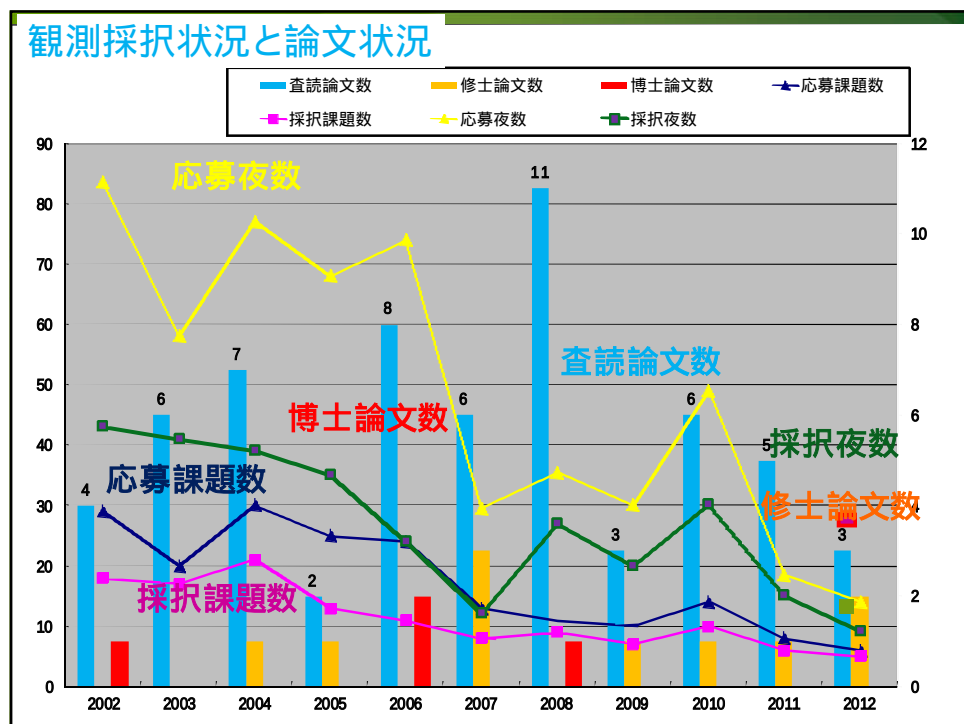
日時: 2012年5月17日 (木) 13:00-17:00

場所: 国立天文台三鷹

出席: 秋田谷洋、大朝由美子、鍛冶澤賢、諸隈智貴
泉浦秀行、竹田洋一

UH88申込と割付の状況					(赤字は観測者資金による買取分、並びにそれを含めた競争倍率)				
適正2倍					適正3倍				
UH88	応募件数	応募夜数	割当夜数	競争率(夜数)	UKIRT	応募件数	応募夜数	割当夜数	競争率(夜数)
S05B	16	49	19	2.6	S05B	5	11	4	2.8
S06A	11	34	10	3.4	S06A	9	21	6	3.5
S06B	13	40	14	2.9	S06B	10	20	5	4.0
S07A	7	13.5	7	1.9	S07A	7	16	2.5	6.4
S07B	6	16	5	3.2	S07B	8	16	3	5.3
S08A	3	11	7+2	1.6/1.2	S08A	3	10	2	5.0
S08B	8	24.5	12+6	2.0/1.4	S08B	10	22.5	6	3.8
S09A	2	7	5	1.4	S09A	2	6	3	2.0
S09B	8	23	10+5	2.3/1.5	S09B	3	8	4	2.0
S10A	6	23	10	2.3	S10A	5	14	8.5	1.6
S10B	8	26	20	1.3	S10B	2	7	5	1.4
S11B	8	18.5	15	1.2					
S12B	6	14	9	1.6					

(11B～UHから夜数上限15夜が設定)



UH88日本人時間についていただいたご意見

- 一定数のニーズがある限りは、小規模ではあっても継続してほしい
- 少人数で萌芽的な研究を行うのに適している。地方の大学の研究者にとって貴重な観測機会。
- 装置開発のための需要は以前より減っているが、観測条件のよいマウナケアにある2m級望遠鏡は依然として需要が高い。大学院生の応募も多い。
- すばるの倍率は依然として高いので、D論・修論のために是非とも必要。
- 1秒角以下のシーイングが期待でき、また低緯度にあるため南天の観測もある程度可能で、東大/miniTAOや名大/IRSFの可視フォローアップなどにも非常に有

UH88日本人時間についていただいたご意見

- 国内からのリモート観測が可能なのは非常に助かる。その点をもっと宣伝するとよい。
- 観測サポートが不足しているので、ユーザー間で情報を共有したい。
- 彗星や小惑星衝突のような太陽系の観測に最適（すばるではスペックがよすぎ、岡山ではシーイング不足）
- 他の観測所ではカバーしていない装置があり、サイエンスの幅が広がる。
- 挑戦的／萌芽的な観測も可能で、若手育成のためにも必要。
- 初めて海外の共同利用望遠鏡を使用することになり、貴重な経験ができる。また来年も応募したい

UH88日本人時間についていただいたご意見

- 望遠鏡/装置が老朽化してきて、かつてのような魅力がない。他の望遠鏡に日本時間を確保してもよい。
- 以前、プリンストン大から「アパッチポイントの望遠鏡に日本人時間を作ってもいい」というような提案が「すばる小委員会」の場であった。
- UH88の装置が限られているので、CFHTなど他のマウナケアの望遠鏡や、チリの望遠鏡などについても日本人時間枠を設けられないか検討し始めるとよい
- コメントいただいた方々は、

愛媛大学、大分大学、埼玉大学、ソウル大学、東京大学、兵庫県立大学、広島大学の11名（うち学生2名）

Special thanks to 吉田千枝さん

UH88日本人時間についておかれている現状

- ◆ 今後については、単年度ごとの予算要求。
- ◆ 国立天文台は様々な望遠鏡に定常的に予算を割いているので、ユーザーが一致団結して要求すれば、定常的になる可能性は残っている（たぶん）
- ◆ 問題は強い要求が出せるかどうか。
- ◆ 参考:MOPRA22mミリ波望遠鏡の例
 - 宇電懇からの要求案
 - \$ 100/h (\$ 16800/week ~ 150万円)
 - ← UH88より安い!
 - 年間2000時間、つまり、\$ 2000万 ~ 1800万円
 - ← 83.3日 (1日24時間換算) !!
- ◆ マウナケアでの観測をすばる一本に絞るのは、日本人天文学者には損失が大きくないでしょうか？
- ◆ 光赤外ユーザーもがんばりましょう! ?